

# 有明海再生赤潮モニタリング委託事業

## 有明海佐賀県海域における植物プランクトンの出現状況等のモニタリング

岩永卓也・山田秀樹・中原啓太・野口浩介

有明海におけるノリ色落ち原因種の発生シナリオの構築および赤潮発生予察技術開発の検討に資するため、有明海佐賀県海域における植物プランクトンの出現状況等の調査を実施した。なお、本課題の詳細については、「赤潮等による漁業被害への対策技術の開発・実証・高度化報告書」で報告した。

### 方法

図1に示すP1, P6, T2, T3 および T13 の計5定点において、2024年10月から2025年2月まで月2回の頻度で調査を実施した。調査項目は、表層における植物プランクトンの細胞密度および栄養塩濃度(DIN)とした。

### 結果

植物プランクトンの細胞密度の推移を図2に示した。植物プランクトンは、0~3,004 cells/mLの範囲で推移した。

調査期間中に発生した赤潮の発生は5件であった(表1)。赤潮の優占種は *Chaetoceros* spp. で2件, *Skeletonema* spp. が2件, *Akashiwo sanguinea* で2件, *Leptocylindrus danicus*, クリプト藻等の微細藻, *Eucampia zodiacus* がそれぞれ1件であった。DINの推移を図3に示した。DINは、全期間で0.0~30.5  $\mu$ g-at/Lの範囲で推移し、特にP6は11月22日以降、他地点は12月9日以降の期間で、ノリの色調維持に必要とされる7  $\mu$ g-at/L以下であった。

表1 赤潮発生状況

発生期間	赤潮構成優占プランクトン
10/16 ~ 10/21	<i>Leptocylindrus danicus</i> クリプト藻等の微細藻
11/1 ~ 11/22	<i>Akashiwo sanguinea</i>
11/26 ~ 12/12	<i>Skeletonema</i> spp. <i>Chaetoceros</i> spp.
12/9 ~ 1/16	<i>Akashiwo sanguinea</i> <i>Chaetoceros</i> spp.
1/16 ~ 4/28	<i>Eucampia zodiacus</i> <i>Skeletonema</i> spp.

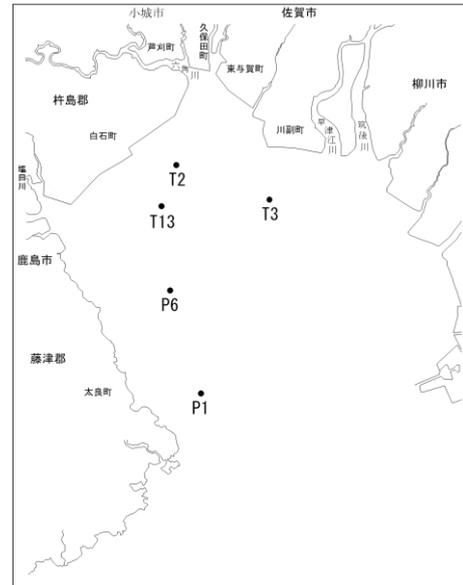


図1 観測地点

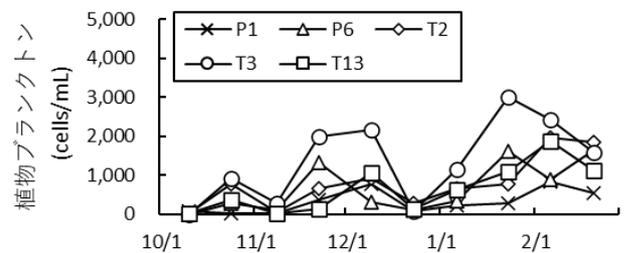


図2 植物プランクトンの細胞密度の推移

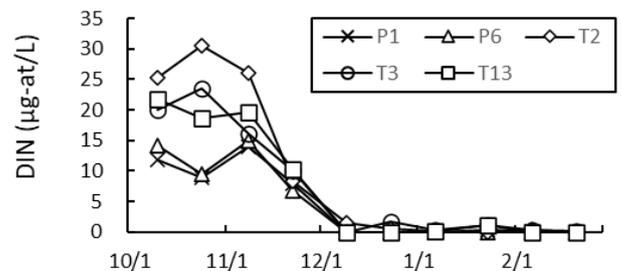


図3 表層におけるDINの推移